

～ 今月の図書案内 ～

体育祭では、ストレスを少しは発散できたでしょうか？
6月にはいり梅雨の季節になってきました。図書館を利用して爽快な気分になってみませんか？新着図書がたくさん入ってます！

6月

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

開館時間 8:35～16:45（色つきの日は閉館日 予定は変更することもあります）

★新着図書のおすすめ本



「廃線寸前! 銚子電鉄 “超極貧” 赤字鉄道の底力」 寺井 広樹

何度も廃線の危機に陥りながらも、逆転の発想で回避してきた銚子電鉄の奮闘を描いています。「ぬれ煎餅」「まずい棒」などのお菓子や時には線路の石も販売し、ついには映画撮影まで…。突飛なアイデアで話題になる銚子電鉄の取り組みをぜひご覧あれ。

★図書館からのおすすめ本



「戦国、まずい飯!」 黒澤 はゆま

歴史小説家の著者が様々な文献を調べ、戦国時代の料理を再現して食べています。煮込むと味噌汁ができる縄の「芋がら縄」。保存食の「干し飯」。真田信之が食べにくいと言っていた「スギナ」。これらの食べ物を通して戦国の暮らしの考察をしている興味深い本です。

「続 につぼん建築散歩」 小林 泰彦

前作「につぼん建築散歩」に掲載されなかった建物を紹介。多数のかわいらしいイラストを通して、明治、大正、昭和へタイムスリップした気分を味わえる。日本全国 30 エリアを網羅し、妄想の旅をしてもいいし、実際に出かけて建物を見比べてみるのも楽しい。



「アーモンド」 ソン・ウォンピョン

2020 年本屋大賞翻訳小説部門第 1 位。
扁桃体（アーモンド）が人より小さく、感情がわからない男子高校生ユンジェ。喜怒哀楽を丸暗記して“普通”に見えるよう母と訓練してきたが…。感情豊かな少年ゴンやドラと出会うことで、ほんの少し彼に変化が起きる。人を救えるのは結局、共感・愛なのでは、と痛感できた一冊。



「デス・ゾーン 栗城史多のエベレスト劇場」 河野 啓

標高 7,500 メートルを超えると地上よりも酸素の量が少なくなるという。神の領域、デス・ゾーン。栗城は大学の山岳部に入るも経験の浅い中、周囲の皆が驚く事にマッキンリーに登ってしまった。そこから彼の挑戦が始まるが、ネットでの中継など独自の登山家を目指す。賛否両論ある山に対する考えだが、親交のあった人達の言葉から栗城の生き方に迫ったノンフィクション。



「千の扉」 柴崎 友香

夫・一俊の祖父に頼まれた千歳は、巨大な団地の中にいるであろう「高橋さん」を探す事になる。巨大な団地は千歳が住んでいた大阪の団地に似て親しみがわいた。出会った人々と千歳の交流は団地の戦後からの歴史が見え、静かな団地の何千戸の住人に思いを寄せる。当たり前前の事の安心と安らぎを改めて思います。